

大型の自動回転ドアの設置状況及び事故発生状況

都道府県から国土交通省への報告（平成 16 年 4 月）に基づき作成。

大型の自動回転ドアの設置台数は年々増加する傾向にあり、2002年には年間に92台設置されている。また、大型の自動回転ドアによる事故も設置台数の増加にともない増加する傾向にある。

図 1 大型自動回転ドア設置年別の台数

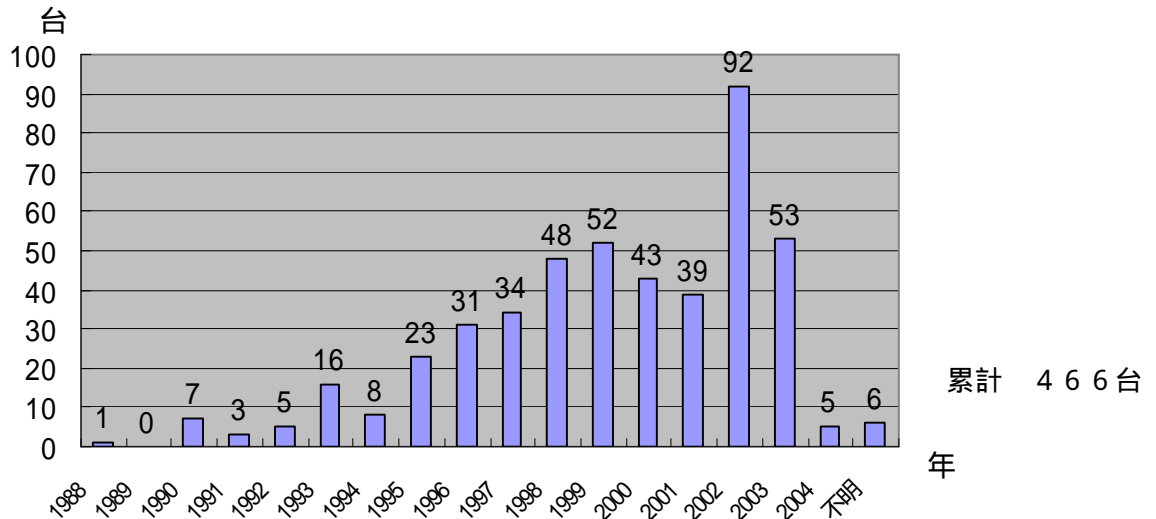
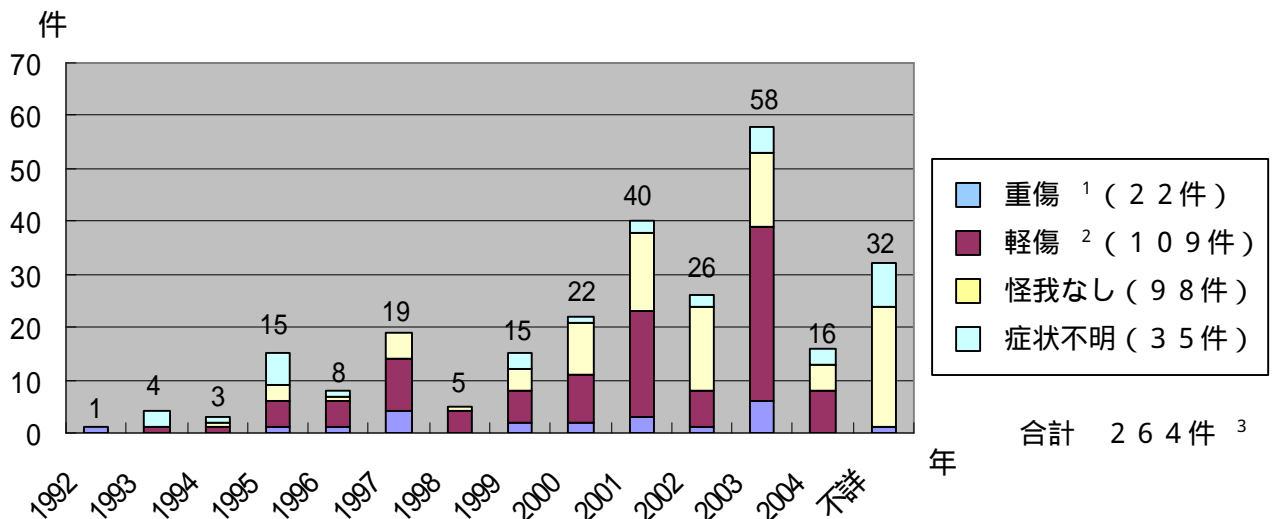


図 2 事故発生件数の推移



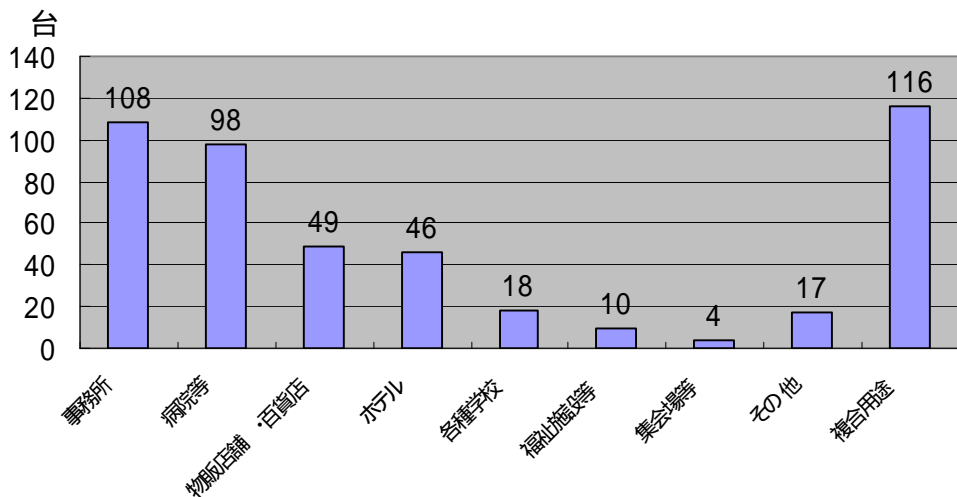
1 「重傷」：治療に要した期間が1ヶ月以上の怪我。

2 「軽傷」：重傷以外の怪我。

3 4月19日発表の270件との差の6件は、直径3m未満の自動回転ドアにおける事故であることが判明。

大型の自動回転ドアの設置台数を建築物の用途別に見ると、事務所、病院等、物販店舗・百貨店の用途を含む建築物に設置されているものが多い。また、大きさ別では、直径4500mm以上5000mm未満のドアが多い。

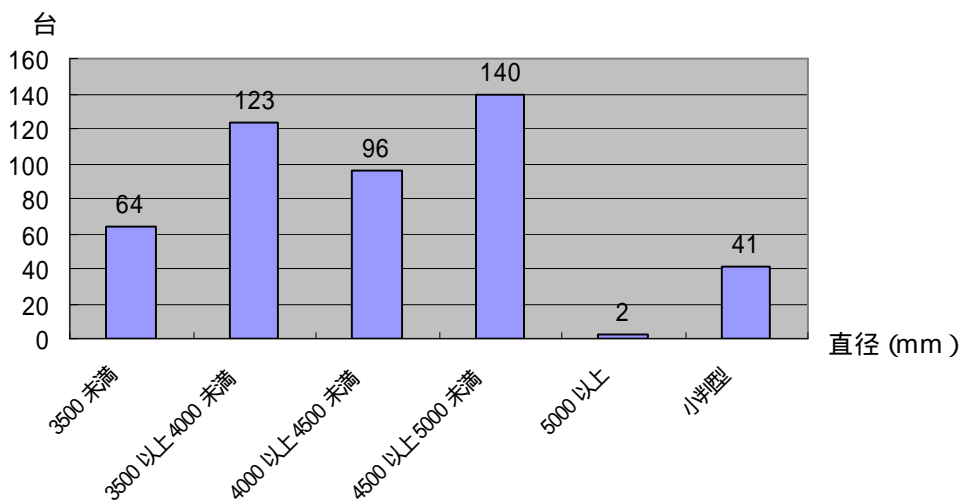
図3 大型自動回転ドア設置台数（用途別）



複合用途の物件のうち、

事務所を含む物件のもの	101台
物販店舗・百貨店を含む物件のもの	80台
集会場等を含む物件のもの	19台
ホテルを含む物件のもの	16台
病院等を含む物件のもの	9台

図4 大型自動回転ドア設置台数（大きさ別）



「小判型」: 回転ドア内に直線通行部分があるため、水平投影した形状が円形ではなく小判型になるもの。

大型の自動回転ドア1台当たりの事故件数について建築物の用途別に見ると、物販店舗・百貨店で高い値となっている。

図5 事故発生件数（用途別・総件数）

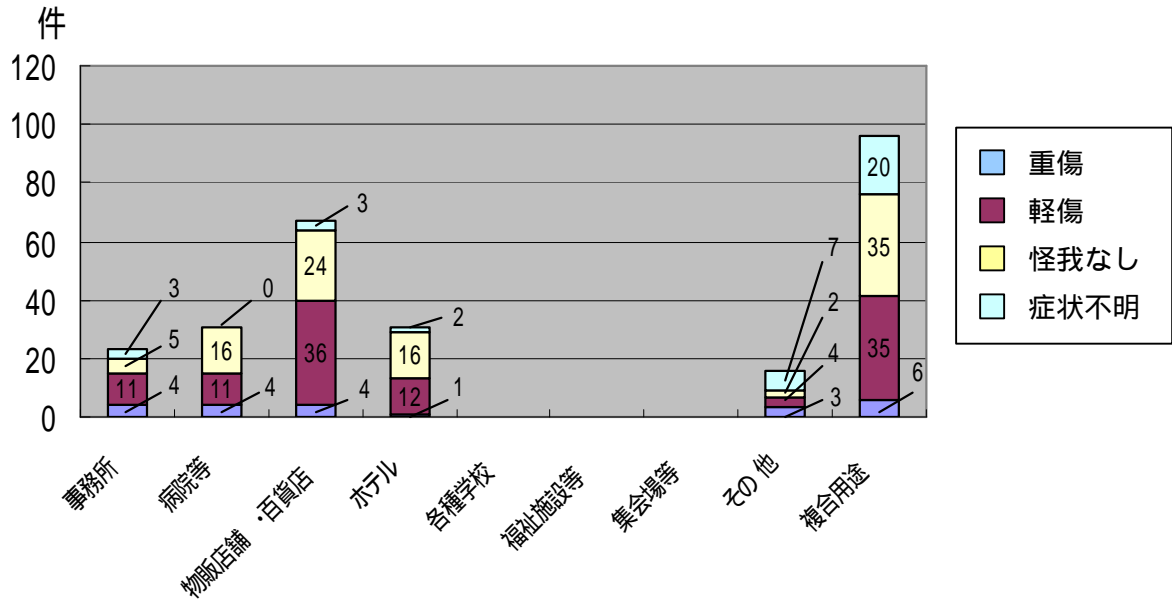
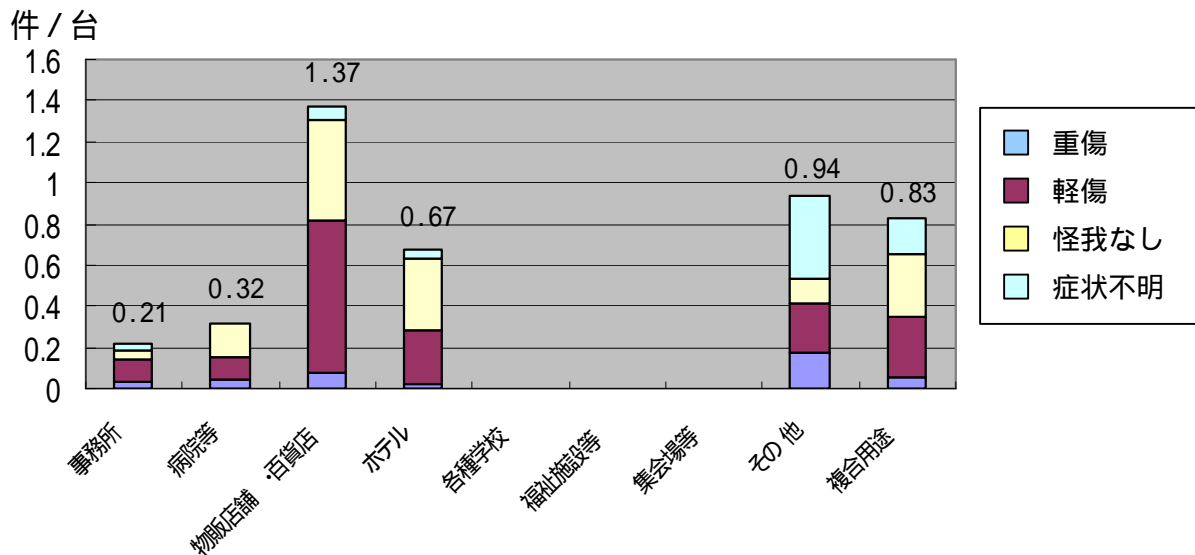


図6 事故発生件数（用途別・1台当たり）



総件数を、用途別の大型の自動回転ドアの設置台数で除したもの。

大型の自動回転ドア1台当たりの事故件数について大きさ別に見ると、小判型、直径4500mm以上5000mm未満のドアで高い値となっている。

図7 事故発生件数（大きさ別・総件数）

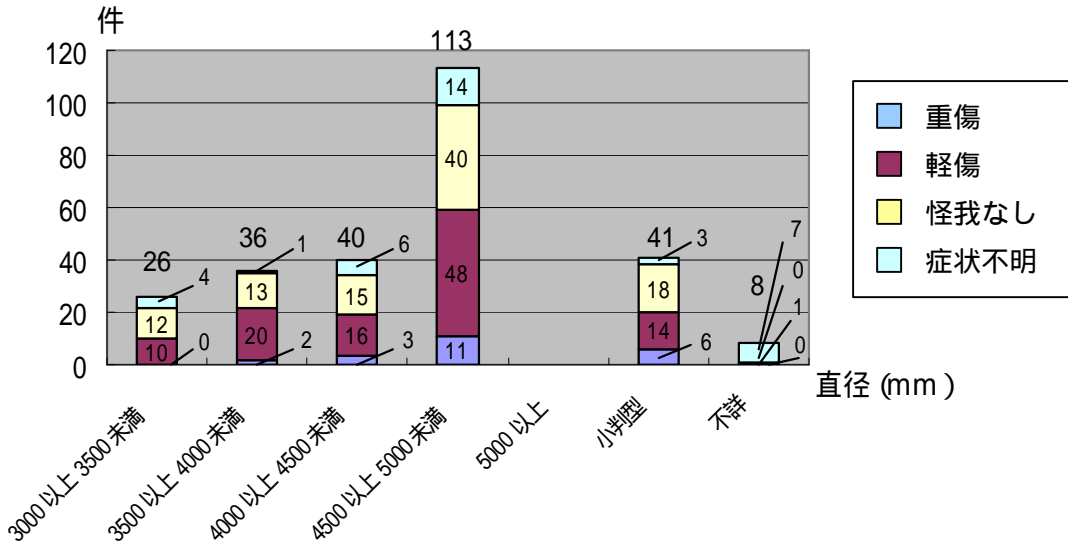
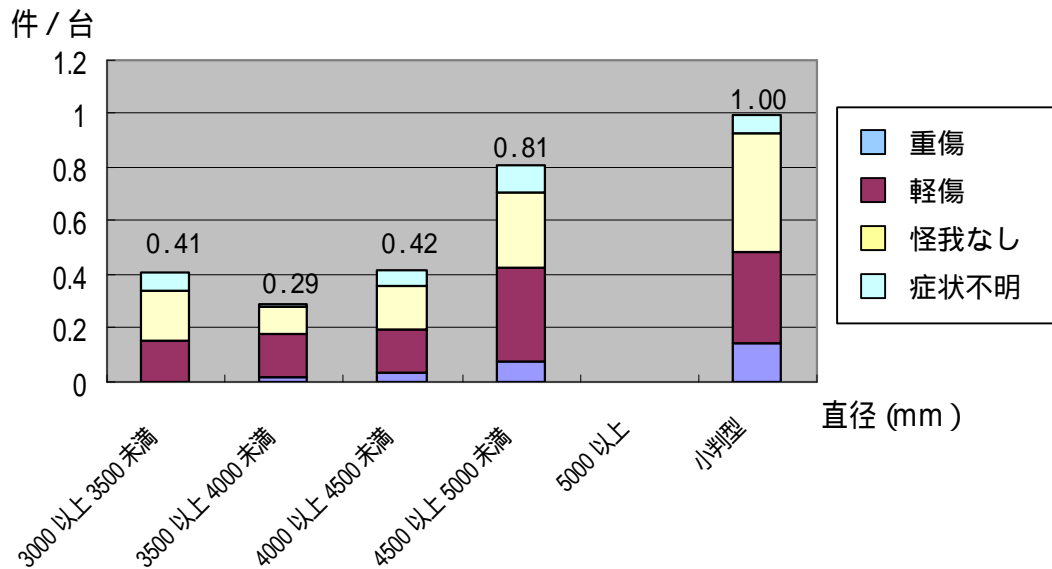


図8 事故発生件数（大きさ別・1台当たり）



総件数を、大きさ別の大型の自動回転ドアの設置台数で除したもの。

大型の自動回転ドアで発生した事故件数を、被害者の年齢別に見ると、10歳未満の子供と70歳以上の高齢者の事故が多い。子供の場合は、怪我なしのケースもあるが、高齢者の場合は、重傷等の事故となっている割合が高い。さらに、10歳未満の子供の事故件数を細かく年齢別に見ると、5歳以下の子供の事故件数が多い。

図9 年齢別の事故発生件数

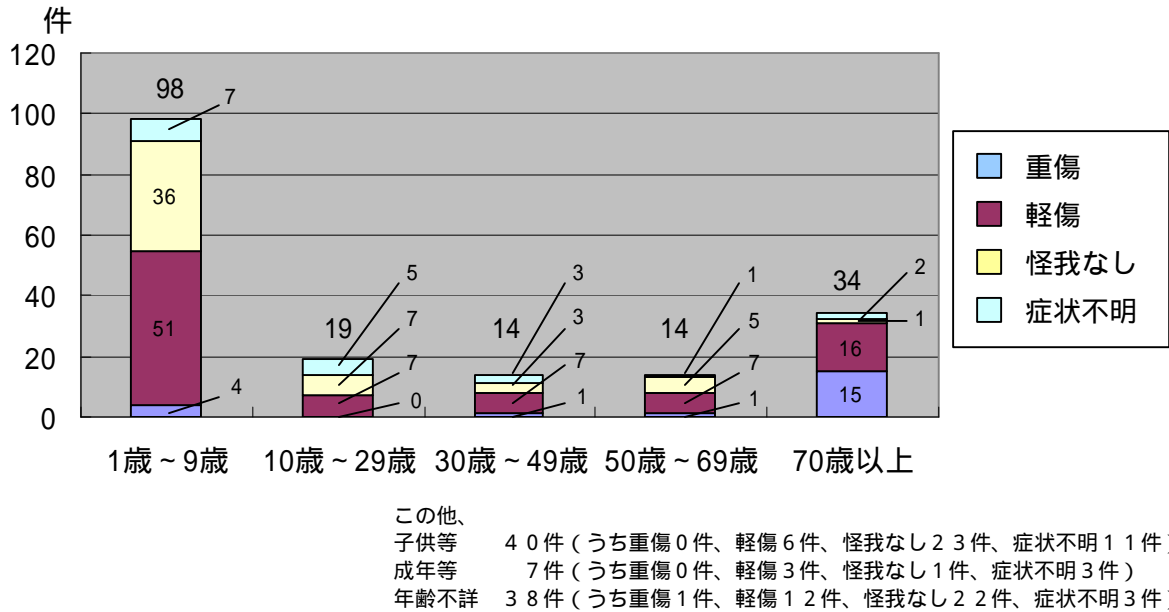
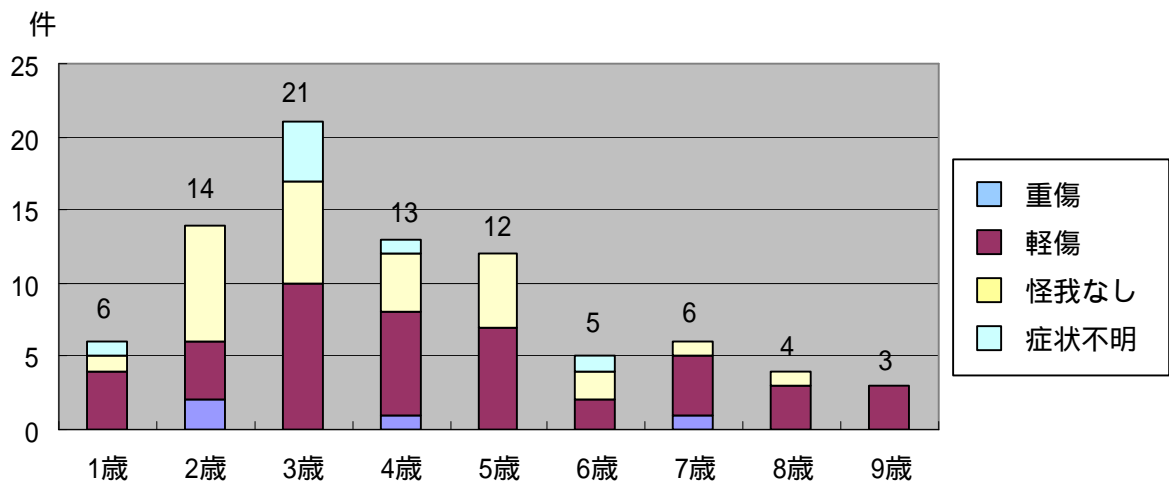
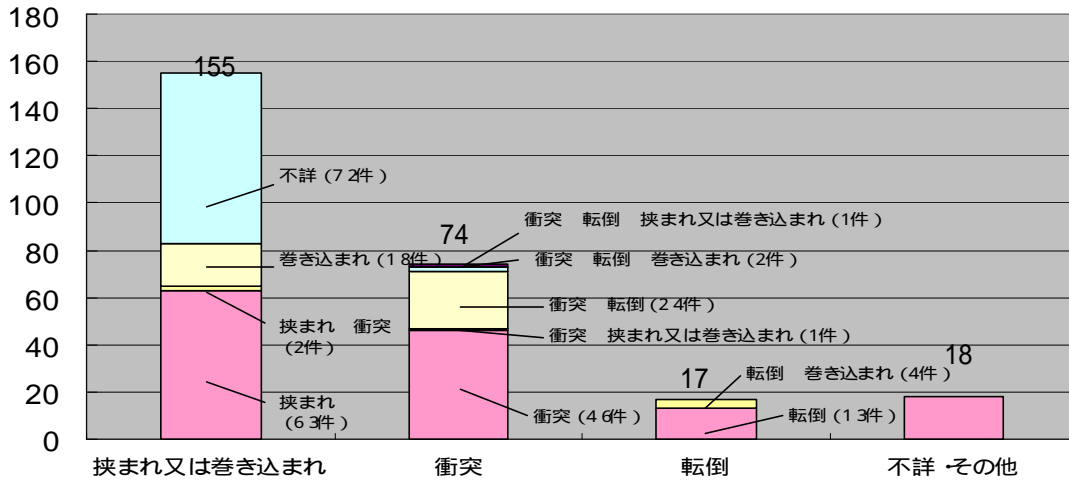


図10 10歳未満の事故発生件数

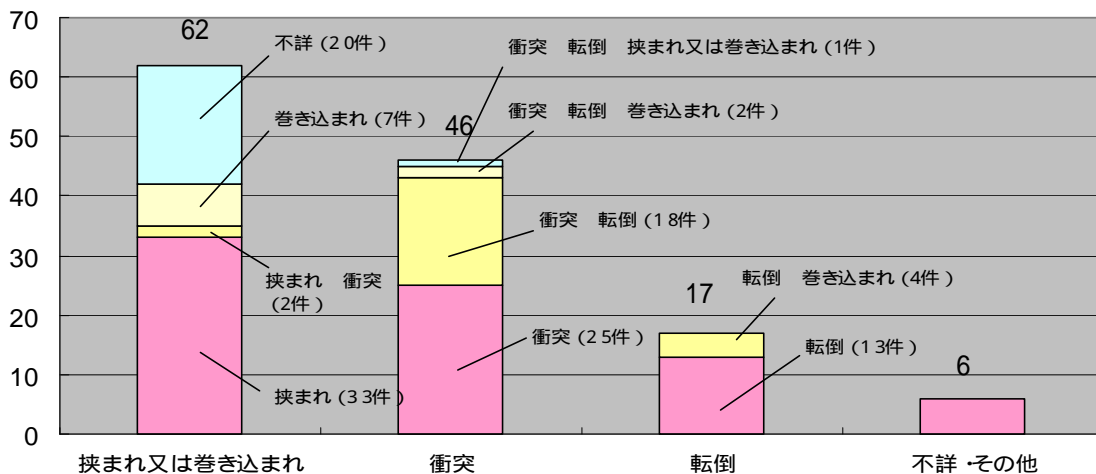


大型の自動回転ドアで発生した事故件数について、怪我なし等を含めた事故全体ではドア側面等への手足等の挟まれ又はドア下框への足の巻き込まれを原因とするものが多い。しかし、重傷となった事故については、転倒を生じているものが多くなっている。

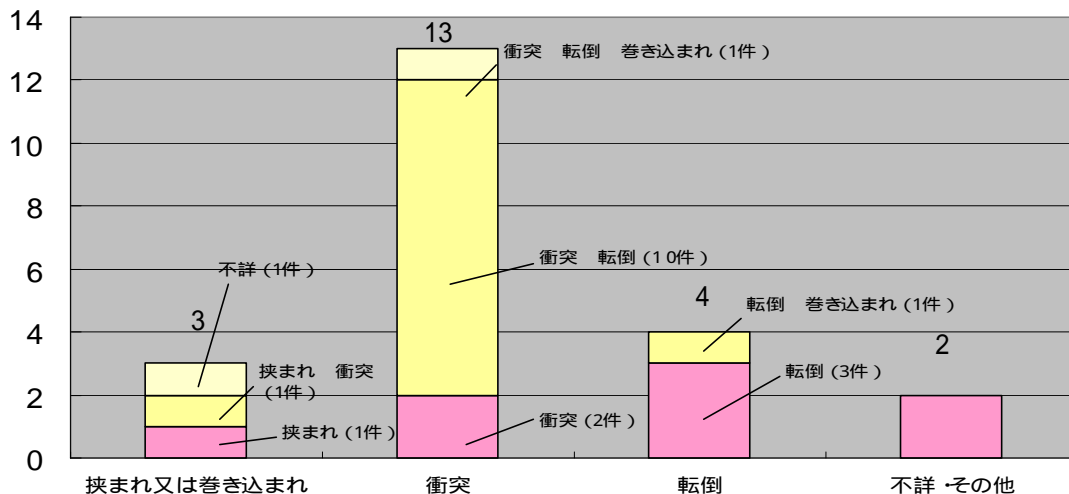
件 図 1 1 事故類型別の事故件数（重傷・軽傷・怪我なし・症状不明）



件 図 1 2 事故類型別の事故件数（重傷・軽傷）



件 図 1 3 事故類型別の事故件数（重傷）



「挟まれ」：ドア側面等へ手足等を挟まれる事故。
 「巻き込まれ」：ドア下框へ足等を巻き込まれる事故。